

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                |            |           |
|---------|----------------|------------|-----------|
| 事業所番号   | 0991000043     |            |           |
| 法人名     | 有限会社 ワイズプランニング |            |           |
| 事業所名    | グループホームこころ黒羽   |            |           |
| 所在地     | 栃木県大田原市大田468-4 |            |           |
| 自己評価作成日 | 平成22年12月1日     | 評価結果市町村受理日 | 平成23年3月1日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                  |  |  |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 |  |  |
| 所在地   | 栃木県宇都宮市若草1-10-6  |  |  |
| 訪問調査日 | 平成22年12月22日      |  |  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

|   |
|---|
| ①全スタッフ(管理者、中間管理者、看護師、一般介護職員)は、経営理念に沿った仕事に徹している。<br>②全スタッフは、それぞれが仕事に生きがいややりがいを見つけるようにしている。<br>③全スタッフは、先に「心」ありきとの意識をもって介護にあたるようにしている。<br>④全スタッフは、本物の介護のプロを目指している。《ご利用者様と言葉以外のツールでも会話ができなくてはならない。五感を働かせ、なおかつ第六感を働かせると少しづつご利用者様の心を感じることができるようになり、みえてくる。ご利用者の声なき声が聴こえなかつたらプロとはいえない。》<br>⑤全スタッフは、介護に関する技術向上をめざしている。<br>⑥全スタッフは、介護に関するより深い知識を得るための努力をしている。 |
|---|

当ホームは旧黒羽町中心部にあり、近隣には郵便局や商店、病院等がある利便性の高い場所でありながら、自然豊かな渓谷もある等、周辺環境に恵まれた場所に位置している。ホームの建物は元町立保育園を改築した物であり、同法人の小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、ホール部で両事業所が繋がっており、利用者が自由に往来する姿や職員間の連携も見られた。法人は運営者等が施設で親族を介護した経験から、少人数で心のある介護、利用者本位のきめ細やかなサービスの提供、利用者や職員がゆったりと過ごす時間を念頭にデイサービス事業を立ち上げた経緯があり、地域密着型サービスにおいても、住み慣れた地域の中で地域との交流も取り入れながら、自宅で過ごすのと同じように、利用者本位の快適な生活提供と共に職員は感謝の心を持って支援に取り組んでいる。また、介護における現場では、職員の力量によりサービスの質が大きく左右されることから、介護技術の向上や支援方針の共有、接遇面等、職員の育成にも力を入れているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)    | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 66 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  |    |   |                       |   |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |  |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                      | 「私たちは生命の尊厳を念頭に置き、豊かな老いと生きがいづくりを喜びとし、共に感謝の心をもって社会に貢献します」これが経営理念である。基本は「生命の尊厳の意識」「豊かな気持ちで過ごす老後といきがいづくりの創出」「あらゆる人間関係や環境への感謝の念」「職業や自己存在を通しての社会貢献」の4点。理念を心のよりどころ、決断の基準、問題改善の指標とし、地域密着型サービス施設として地域の中に根付いていきたい。 | 本人の尊厳や生きがい支援、社会貢献等を掲げた法人理念を基に4つの指針が定められており、職員へは毎朝の唱和やミーティング時等の確認によって理念の共有に努めている。地域密着型サービス事業所として、入居者が住み慣れた地域の中で利用者本位の支援の提供に取り組んでいる。   |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                      | 地域の活動や行事には積極的に参加している。当地区のシステム上自治会の入会が出来ないが、立地の区長さんの協力をえられ、地区より存在を認められていると感じる。認知症サポーター講座の開催にあたり、200戸以上の家庭に回覧板で案内を配布していただいたり、区長さん名で要請状も出していただけた。今後とも地域の人達とのよりよいおつきあいを大事にしていく所存である。                         | 事業の立地する自治会規定により、法人としての自治会への入会は認められていないが、賛助会員として区長や地域住民との関係構築に積極的に取り組んでいる。ホームで毎月実施しているお茶会や季節毎の行事等の開催時には、地域住民にも参加を呼びかけている他、地域へ向けて認知症の理解・促進のための講座を開催する等、地域の一員としてホームの機能も活かしながらの相互交流に努めている。 |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                    | ご近所に暮らしている高齢者や独居家庭の保安などにも役にたちたいと職員共通の考え方を持っており、夕食の給食配達サービス時の安否確認においては当施設ならではの社会貢献と自負している。また、全体会議などでも地域の高齢者のために何か役に立つことがないか機会あるたびに話し合っている。  |  |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では外部評価の内容を会議のテーマとして複数回取り上げ話し合いをもっている。もうひとつの外部評価の機会とも捉えている。常にこれらの評価を活用し、実際のサービスに繋がるように努力している。   | 運営推進会議は2か月毎に入居者、家族、市職員、地域包括支援センター職員等の参加により開催しており、議題が防災の時等には消防署員や消防団員の参加もある。会議ではホーム側から利用状況の報告、参加者との意見交換により、提案や助言をホームでは大切な意見として日々の支援に役立てている。   |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる          | 大田原市のバックアップで立ち上がった地域密着型部会は施設の代表者やCMだけでなく、一般の職員も市の担当者と接する機会にもなっており、身近な存在として親しみが湧いてきている。新しい情報入手の機会にもなり、施設のサービスの向上にも繋がってきている。これからも市との連携と交流を積極的に深めていく所存である。  | 市職員には運営推進会議の参加時等にホームの取組状況や課題等について把握してもらっている他、制度上の相談や情報交換等も行われている。また、市の提案により発足した、市内同業者による地域密着型サービス部会にも積極的に参加し、他事業所との交流や情報交換に活かされる等、市との連携に努めている。   |                   |

グループホームこころ黒羽

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
|    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者には安全な範囲内でできる限り自由に行動できるように配慮しており、身体の危険を予想できる場合は安全対策を優先とさせていただいている。   | 職員は身体拘束に該当する行為について理解しており、安全上に配慮しながらも見守りや声掛けによる拘束の無い支援に取り組んでいる。また、職員が意識しない場合においても拘束となっている場合もあることから、常に職員間での確認に努めている。玄関は職員の見守りにより、施錠のない支援を行っている。           |                   |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている                                       | 勉強会や全体会議で高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持っている。特に家庭内でのネグレクト等の虐待問題を感じた場合の処置方や介護職員がとるべき行動について職員の意識啓発を絶やさないようにしている。また、無意識に行ってしまう可能性の高い心理的虐待について、法の遵守を含みより高い認識をもち虐待防止が実施できるように努めているし、あらゆる機会を捉え、管理者や職員は虐待関連研修に積極的に参加するようにしている。 |   |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している                                 | 具体的に対応が急がれる利用者もあり、地域権利擁護事業や成年後見制度について認識せざるを得ない状況下にあるので外部への情報発信を始めている。管理者にあっては、できるだけ正確な知識をもった上で、必要な人にはそれらの活用の支援ができるよう努力をしている。   |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている  | 先ず利用者や家族等の不安、疑問点を可能な限り取り除く努力をしてから契約の話をするように心がけている。特にキーパーソンとは十分な相互対話と契約内容の説明を行い十分な理解・納得をしていただいた上で契約書を取り交わし、不鮮明な部分があったり理解が得られていないと察知した場合は理解が得られるまで話し合いを繰り返したり、契約を延期するようにしている。また、解約時の注意事項は意識的によく説明をするようにしている。   |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている  | 利用者が意見、不満、苦情を気楽にいえるように先ず職員が聞く耳を持つように心がけるようにしている。職員はアンテナ的な役目を担い、正式な窓口は管理者が担当する。相談を受けた場合は早急に管理者に報告し、管理者を中心に施設長、幹部職員が事実関係確認と内容分析を行い改善策等を検討している。必要に応じて、家族に報告・相談を行い、最善策で対応するように努力している。                            | 職員は入居者や家族が意見や要望等を表し易いよう、関係づくりに努めており、日々の支援や家族の来所時等に確認を行っている。意見や要望等が出された場合は、速やかに管理者に報告され、状況確認や原因等を探ると共に、ミーティング等で協議し、運営に反映させている。なお、提案や要望にはできるかぎり応える様にしている。 |                   |

グループホームこころ黒羽

| 自己                           | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
|                              |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11                           | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 全体会議や日々の申し送りの時に出される職員からの小さな意見や提案も運営に活かされるように大切に気づかっている。また、運営に関する提案などは積極的に行われているように思う。  | 管理者は直接、支援に携わっている職員の意見や提案は特に重要視している。職員は1日3回行われている情報交換ミーティング時等に気軽に意見や提案を表せる機会が設けられており、協議により運営に反映させている。 |                   |
| 12                           |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況等を把握し、向上心を持って働けるような職場環境や整備に努力しているが、完璧に整っているといえず、今後の課題である。   |  |                   |
| 13                           |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 施設内外の研修は積極的に受けられるよう門戸は広く開けている。人材育成は施設の重要な方針のひとつでもあるので、この度、人材育成担当を決め、全職員のスキルアップ計画をスタートさせた。また、資格取得を望む者に対しては協力と援助は積極的に行っている。さらに働きながらトレーニングができる勤務体制の配慮をしている。 |  |                   |
| 14                           |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ひとつの例として地域密着型部会が実際に活動している。従って、同業者の意見交換の機会も多くなり、少しずつではあるがネットワークづくりの一端になりつつあるように思う。このような試みがやがて大きな実を結び、業界のレベルアップに結びついていくであろうことを予感している。                      |  |                   |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |  |                   |
| 15                           |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 初期において、いかに信頼関係を早く作り得るかは大変重要なポイントである。基本は対象者をよく知ることであるから、生活環境、本人が希望するサービス内容、過去のサービス利用状況などを総合的に的確に確認するようにしている。特に本人が不安に思っていることは親身になって声なき声を傾聴するよう心がけている。      |  |                   |
| 16                           |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 前項と重複する事がほとんどであるが経済的な不安感の存在は否定出来ないため、早めにはっきりと具体的にパンフレット等で費用予定額を示し、一種の覚悟のようなものを持っていただけるようにしている。その上で、生活環境や介護状況、家族として希望していること等を総合的に傾聴し確認するようにしている。          |  |                   |

グループホームこころ黒羽

| 自己                                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |  |
|------------------------------------|-----|---|--|--|--|
|                                    |     |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 17                                 |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている       | 必要とされる支援の内容を見極めるため、過去のサービス利用状況の有無や現在の生活状況、介護状況などを総合的にアセスメントしてできる限りの確かな介護計画が策定できるように努力している。   |  |  |
| 18                                 |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                       | 本項は当施設の理念にある重要なポイントである。職員が利用者の介護を通し、喜怒哀楽をともにし、そのなかから学び、互いに喜びと感謝の念が育つことを目標にしている。  |  |  |
| 19                                 |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている        | 前項同様に当施設の理念にある重要なポイントである。家族の話を傾聴し、心のありようや変化などを読み取り、本人や家族にとって安心して生活できる環境を整えるために家族と一緒に本人を支える関係を構築する努力をしている。また、家族の介護負担の軽減を図り、ストレス等の解消に貢献できるよう努めている。       |  |  |
| 20                                 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                    | 古い友人やご近所の交友関係を大事にした馴染みの生活環境が維持できるように支援している。特に知合いなどの面会は大歓迎で迎え入れをしており、ホールで一緒に御茶などを飲んでいただいたり、場合によっては昼食を一緒に食べていただくこともある。そして、一度ならず何度もたずねてきていただけるようお願いをしている。 | 入居者の馴染みの人間関係が継続出来るよう支援に取り組んでおり、友人や知人の来所を歓迎すると共に、再訪をお願いしている。また、家族の協力も得ながら、馴染みの飲食店に出かけてもらう等、馴染みの関係の継続に努めている。 | 今後、本人や家族からの情報を参考にしながら馴染みの場所の把握にも努め、本人の希望や状態も見極めながら、馴染みの場所にも訪問できる様な取組みに期待したい。 |
| 21                                 |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 利用者同士が互いに関わり合ったり、支えあったりする環境の構築に努力している。そのためには利用者一人ひとりの性格、趣味等々昔の生活環境をできるだけ詳しく具体的に把握するようにして努力している。  |  |  |
| 22                                 |     | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後であっても家族などの希望を優先に考え総合的に関わっていくよう努力をしている。また、よりよい地域密着型の介護とはという常に向上心に併せ問題意識を持ち続け、関係を断ち切らないようにしている。   |  |  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |     |   |  |  |  |
| 23                                 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                        | 関わるスタッフと密度の高いカンファレンスを行えるように努力している。また、情報共有を図ると同時にアセスメントを充実することでひとりひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、実際の計画に反映できる工夫をしている。   | 職員は入居者との馴染みの関係から、口頭や仕草、表情等から本人の思いや意向の把握に取り組んでいる。職員間ではアセスメントシートや個別カンファレンス等を活用して情報を共有しながら、支援に役立っている。         |  |

グループホームこころ黒羽

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | ひとりひとりの生活の歴史を尊重しながら、本人がこれまでの様に暮らしてきたのかを把握するようにしている。また、アセスメントが充実するように本人、家族と情報交換を絶やさず行い、これまでのサービス内容の検討もおこない、よりの確な介護が提供できるように努力している。                                 |   |                   |
| 25 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | ひとりひとりの一日の過ごし方、本人の残存している各種の力、心身の状態、ADLなどを客観的かつ総合的に把握するよう努力している。また、家族や担当医との情報共有をはかり、より正確に状況の把握ができるように努めている。  |   |                   |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 個々の趣味やできることのリサーチを行い、ひとりひとりに合った本人優先の介護計画作成を心がけている。そのために諸々の意見やアイデアを本人、家族、スタッフなど関わる人達から入手し、それらを活かすよう努力している。  | 介護計画は本人や家族の要望を確認したうえで、本人の性格や趣味趣向、身体状況等の情報を多角的に判断しながら作成している。計画の見直しはモニタリングやカンファレンスを行いながら、3か月から6か月の期間で現状に合ったものに見直している。また、状態に大きな変化が見られた場合には随時、見直している。 |                   |
| 27 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 介護の実践や介護計画の見直しに活用するために、日々の情報は個別にファイリングし、誰が見ても理解しやすくしている。  |   |                   |
| 28 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 当施設の柔軟性を持った支援は高い自己評価をする部分でもある。定期的な利用の他、必要に応じて追加変更は極力事業所の多機能性を活かした支援を行っている。  |   |                   |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         | 民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力をしながら支援をしている。また、運営推進会議委員や地域の人達との関わりを積極的にもち、よりよい支援ができるように努力している。  |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                     | 緊急時などは状況に応じて適切な医療を受けられるよう協力医との良好な関係ができあがり、連携がとれている。通常受診は家族にお任せしているが、場合によっては家族と共に診察に立ち会うこともある。また、診察の結果について必ず施設の看護師が理解しておくと同時に家族と施設の情報の共有は欠かせないものと全職員が意識をもって対処している。 | 本人や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しているが、ホームの目の前にある協力医にかかりつけ医を変更する入居者も多い。受診時の付添いは家族にお願いしているが、受診結果や服薬等に関する情報は家族とも共有しながら適切な健康管理が図れるよう努めている。                     |                   |

グループホームこころ黒羽

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |   |
|----------------------------------|------|---|--|--|---|
|                                  |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| 31                               |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 看護師と主治医との情報交換と連携はうまくとれている。その情報を基本に利用者の日常の状態を理解した上で看護師は利用者が気軽に相談できる雰囲気を作っている。   |  |   |
| 32                               |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院についての必要な情報は医療機関と共有しているので、安心して入院したり、早期退院についての情報交換や相談にのれるように極力努めている。家族が利用者の状態に応じて最良の選択ができるように援助している。  |  |   |
| 33                               | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度や終末期に向けた確固たる方針は出来ていないが、利用者の家族と共に早くからその人なりの方向性を決めていきたい。また、担当医よりそれなりの援助をしていただけるように話し合いを絶やさないようにしている。   | 重度化や終末期においては、本人及び家族の希望により、できるかぎりホームでの支援に取り組んでいきたいと考えているが、設備面の問題や医療行為への対応等により、特養や医療機関等に移る場合が多い状況にある。今後も職員間での方針の共有や主治医等とも連携を図りながら、本人本位の支援に取り組んでいきたいと考えている。       | 今後、慣れ親しんだ当ホームでの終末期を希望される場合も増えてくると思われる事から、重度化や終末期にどこまで援助すべきなのか、出来るのか等、職員との協議や主治医等からの助言も得ながら、ホームの指針や支援体制づくりの検討に取り組んで行くことに期待したい。 |
| 34                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 職員の自主的な研修への参加があり、急変や事故発生時の対応のスキルアップにつながっている。また、応急手当や初期対応の簡単な訓練指導を担当看護師が講師となり勉強会をおこなっている。事故発生時における協力医や担当医との連携はうまく図れている。また、管轄の消防署や自衛消防団の協力も得られているので、定期的な初歩訓練は継続していきたい。 |  |   |
| 35                               | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 毎年必ず職員と利用者全員が参加しての避難訓練を行っている。常々、警察、消防署はもとより近所の方々への協力依頼をしており、運営推進会議において管轄消防署並びに地域自衛消防団の代表者をお呼びし、安全対策について利用者の家族とともに学ぶ機会を設けている。   | 年2回、消防署員の立会い等により消防訓練を実施しており、夜間時等も想定した避難訓練等も行っている。運営推進会議に消防署員や消防団員に参加してもらい、指導や助言を受ける等、関係機関との連携にも取り組んでいる。また、近隣住民にも災害発生時の協力を呼掛けている。今年度中にスプリンクラーや自動通報装置の設置を予定している。 | 今後も災害時における手順の把握の徹底や、近隣住民の参加・協力による訓練の実施等、災害時における地域との連携体制の構築に向けた取組みに期待したい。  |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |  |  |   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている  | 経営理念に照らし合わせ、ひとりひとりのプライドやプライバシーを尊重した言動に努めるよう職員は理解している。同様に記録に関しても十分留意するように確認している。今後も言葉掛けや対応についての勉強会を続けていく所存である。  | 入居者一人ひとりの人格を尊重した支援に取り組んでおり、馴染みの関係であっても言葉使いや態度には節度を持って支援する様、職員に注意を促している。日々の言葉かけや誘導にはさりげない声かけに努め、本人の羞恥心や他入居者にも配慮した対応に努めている。                                      | 職員の言葉遣いや支援態度は、入居者との親密な関係や介護する側される側等から無意識に誇りや尊厳を損ねている場合もある事とから、ホームにおける統一した支援姿勢のマニュアル化や接遇に関する研修等の取組みに期待したい。                     |

グループホームこころ黒羽

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 一人ひとりとの関わりを尊重し、思いや希望についてその人なりの力に合わせた表現が気軽にできるように支援し、職員も利用者が本当にいたいことや希望が何なのかを理解できるような傾聴をこころがけている。また、自分自身が決定できることを決定し、納得しながら生活できるように出来るだけの支援をしている。  |  |                   |
| 38 |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご利用者一人ひとりが日々その人らしく過ごすにはどの様に援助していけばいいのか、何を望んでいるのかをリサーチするための用紙を作成し、必要に応じて実施し、勉強会などで活用している。職員と利用者との相互の会話ができるように、ご利用者自身が発する言葉を大切にしている。  |  |                   |
| 39 |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 理容に関しては、月に1~2回程度のペースの出張サービスを心待ちにしてくれるようになった。家族からも喜んでいただいている。美容に関しては本人のかかりつけのお店に行くかは家族と本人に決定してもらっている。ご利用者の毎日の更衣や入浴後の洋服等については、本人の希望を優先して自己決定できるように支援している。                                 |  |                   |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 当施設が準備する食材はすべて手作りである。また、食事の好み、摂取可能な食物などをリサーチして可能な範囲でアレンジしている。じゃがいもの皮を剥くなどの食材の準備や食器の後片付けもできる範囲で職員と共に行っている。食事は利用者にとって大変楽しみなレクリエーションのひとつでもあると捉えており、厨房スタッフは安全に楽しみながら摂取できるよう特に注意をはらって調理している。 | 献立は調理師資格を持つ厨房職員が栄養バランスやカロリー等を考慮しながら作成している。入居者は職員と共に食事の準備や片付け等を行っており、職員も入居者と一緒に同じものを会話を楽しみながら食べる等、ホームでは食事を楽しみや生きがいづくりに役立っている。 |                   |
| 41 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 栄養バランスを考慮した1ヶ月の献立を作成し、日々の微調整をその都度行い、厨房専門のスタッフが個々の体調に合わせた調理を行っている。また、栄養摂取や水分確保の支援をするために体調や状態の変化に応じて随時内容をアレンジするようにしている。   |  |                   |
| 42 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 認知症状により対応が困難な場合があるが工夫することで定期的に口腔ケアが出来ている。一人ひとりの状態に合ったケアをスタッフが声掛け誘導し、食後口腔内に残渣物を残さず清潔を保つように支援している。  |  |                   |



グループホームこころ黒羽

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている       | 自主的な排便を基本としているが、必要に応じて声かけ誘導し、気持ちよく排泄できるように支援している。介護職員は利用者ひとりひとりの力や排泄のパターンや習慣を理解するよう努力している。また、排泄の失敗が不穏を誘発する場合もあるので、できるだけ失敗しないように配慮を心がけている。  | 一人ひとりの排泄記録をつけながら、排泄パターンや習慣の把握に努め、さりげない声掛けや誘導により、できるかぎりトイレでの自立した排泄支援を行っている。夜間時は本人の希望も確認したうえで、オムツやリハビリパンツ等を使用する場合もある。      |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                       | 食物繊維食材のバランスのよい摂取と十分な水分の補給などを行い、便秘の予防やより有効的な対応を心がけている。また、適切な無理のない体操や自力歩行を継続する働きかけを行い便秘にならないよう、かつ便秘体質が改善されるような対策をしている。   |  |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 自宅生活の習慣に合わせて就寝前の入浴なども工夫して実施している。また、個々の体調や生活習慣、希望に合わせて楽しんで入浴できるよう支援しており、場合によっては入浴できない場合は足浴などを施行するなどできるだけ柔軟な対応を心がけている。   | 本人の希望する時間帯での入浴支援に取り組んでおり、夜間浴は午後7時15分から行われている。毎日でも入浴できる様になっているが、本人の希望により1日置きの入浴が多い状況になっており、入浴の時間や温度、同性介助等は本人の希望により対応している。 |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                        | ひとりひとりの生活習慣や体調、状態に合わせて、就寝時刻や午睡をアレンジしている。清潔な寝具類の提供は安眠の大事な要素であるので極力心を配るようにしている。  |  |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                   | 職員による服薬援助の方法の指導と薬の管理は専属の看護師が責任を持っておこなっている。職員は看護師の指示を間違いなく行ったかどうかの結果をチェック表に記入するようにしている。処方された薬の説明書等は各個々のファイルに綴じ込み管理しており、必要があれば職員全員が確認のための閲覧が出来るようになっている。   |  |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている      | 農業経験者には菜園作りで植え付け、追肥、草取り、収穫など一貫した作業を楽しみながら参加できるように、裁縫が得意な方には雑巾縫いなど、一人ひとりの生活歴を尊重し、できることによる楽しみを得られるように工夫している。特に農作業に熟達している方に参加していただく「大変だ」と言いつつも役に立っていると笑顔で喜びを表現している。今後も役割、楽しみごとや気晴らしになることを色々考えて取組みをしてゆきたい。 |  |                   |

グループホームこころ黒羽

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 庭先に出て花を眺めたり、施設の周囲を散歩したり、天候と体調をみながら外の空気を吸えるよう支援している。また、月一回の外食会や季節ごとのドライブは積極的にこなされており、体調や天候、季節に応じて外出する機会を多くつづけている。  | 本人の体調や天候にもよるが、1日1回は外に出て外気に触れることを心がけており、庭で草花との触れ合いやホーム周辺への散歩や買い物、毎月の外食や季節毎のドライブ等の外出支援に取り組んでいる。   |                   |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 原則は現金の持ち込み禁止にしているが家族の了解を得て、暮らしの中で買い物希望する時などは状況に応じて付き添い支援している。自分の財布から現金を出して必要なものやお菓子類の買い物を定期的またはランダムにすることを支援している。また、預かり金については領収書と金銭管理を帳簿に記帳するなど管理者が責任をもって協力している。 |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 基本的には私用電話はお断りしているが、電話を使用したいときには状況を判断しながら自由に使用していただいている。暑中見舞いや年賀状などを作成し家族や知人と交流を持つ機会を作ったり、利用者の友人知人などにハガキなどを書いていただけるよう依頼することもある。                                  |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 絵画や利用者の絵や毛筆の作品を飾ったり、季節を感じられるものを利用者と一緒に作成し、作る楽しさと飾る楽しみ方が同時にできるように工夫している。共用空間は明かりのとりかたを工夫し、視覚的に負担のかからないように配慮している。また、テレビや音楽は、できるだけ慣れ親しんだり楽しめる内容のものにしている。           | 共用空間は併設する小規模多機能型住宅介護事業所とホール部で繋がっており、広い空間が確保され、お互いの利用者が自由に往来し、リビングやソファ等で寛ぐ姿が見られた。テーブル等には花が活けられ、壁面には職員と入居者が作成した季節の飾り付けが掲示されている。温度や湿度、換気等も適切に管理されており、居心地の良い空間となっている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 玄関に配置しているソファや畳の間を臨機応変に活用してサブリビングスペースをつくり出している。また、TPOに合わせてテーブル配置をアレンジし、プライベートの場所を確保することもある。ホールが読書やゲームができるスペースになったり、ひとりひとりが思い思いの居心地のよい場所として感じられるように努めている。         |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 今まで自宅で使い慣れたものや趣向に合わせたもので環境作りをしている。  | 居室は自宅との考えから扉に暖簾を吊しており、プライバシーへの配慮がされている。各居室室内には入居者が使い慣れた家具類や家族の写真や自作の手工芸品等が持込まれており、各々が個性的で快適な居室作りをしている。  |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している   | トイレ、浴室など一目で理解できる表示をしたり、居室には名前プレートを下げるなどして、さりげなく混乱を避ける工夫をしている。   |   |                   |